

先日の看取りシミュレーション研修をありがとうございました。

看取りの場面において、私が大事にしたいと思うことは、「家族が患者の最期まで寄り添って欲しい」、「一緒に過ごして欲しい」、「最期までできるだけその人らしく過ごして欲しい」と考えていました。なぜなら、自分の体験ですが、家族との死別で最も印象に残っているのは、病院で過ごした最期の時間だったからです。死亡退院し家に帰ってからは、お通夜・葬式とで忙しく故人の思い出をゆっくり考えたり、振り返る時間があまり無かった記憶があります。そのため最期に患者と家族が過ごす時間と、それを支える看護師の声かけや態度が非常に大切であると考えました。

新人の時から看取りの場面に立ち会う機会 was ありましたが、何度経験しても声のかけ方や、言葉の選び方、どうすれば患者と家族が近づけるかなど、悩むことが何度もありました。しかしシミュレーション後に、先輩方が声かけや態度で工夫していることや、気を付けていることを聞き、今後看取りの場面での看護につながるヒントをたくさんいただきました。とくに、最期の瞬間がせまっていることを、「心臓と呼吸が疲れてきている」と言い換えることや、ベッド柵をはずすとといったことは今までしたことが無かったため、今後取り入れていきたいと思いました。そもそも看取りの場面で大事にしていることや、工夫していること、心がけていることなどは普段語る機会がないため、他の看護師がどんな考えをもっているか聴けたのはとても貴重な経験です。また機会があれば救急で経験した看取りの場面など、他の経験なども聞いてみたいと思いました。本当にありがとうございました。